

一行目に日本語タイトル。  
サブタイトルにはダッシュ（―）を用いる。

節のタイトルは、前後を一行空け、行頭から一字下げること。本文と区別するため、字体を変えるか太字にすること。

原稿の設定

- ・ 註を含め20000字（A四版一七枚）以内
- ・ 縦書きで一頁あたり30字×40行

ワードプロセッサの脚注機能を使用しないこと

現在の教育哲学の課題――R・ローティーの思想を手がかりに――

はじめに

今日、教育哲学は・・・

――現代日本の教育哲学の動向

（一）戦後の教育哲学の歴史  
太平洋戦争が終わり、日本の教育学界は（一）、・・・

執筆者の氏名や所属を記載しない（欧文摘要とその邦訳文も同様）。

ページ番号を付すこと。

タイトル番号は原則として漢数字で表記し、番号に読点を加えないこと。

本文中、挿入句等は、――（ハイフン）ではなく、――（ダッシュ）を用いる。

巻末に「引用文献」を挙げる形式の一例。本文中に著者名、発行年、ページ数を括弧内に挙げている。

- ・ 註番号は数字を丸括弧で示すこと。
- ・ 文字設定で「上付き」を用いる、あるいは字体を変えるなど、註番号であることが分かるようにすること。

・・・している――その意義は看過できない――とローティーは述べる（cf. Rorty 1982, pp.423-425）。  
・・・そして「忘却の穴に落ち込んでいく状況」（小玉二〇一三、三七頁）が学校教育の場にも認められるのだ。

・・・である。

註  
(一) . . . . .  
(二) . . . . .  
(三) . . . . .

註は後註。文字サイズや行間等の様式は本文と同一とし、文書ソフトの脚注機能は使用しないこと。

引用文献

小玉重夫(二〇一三)『難民と市民の間でーハンナ・アレント「人間の条件」を読み直すー』現代書館。

松下晴彦(二〇一三)「フェルメール『真珠の耳飾りの少女』とオールド・オーダー・アーミッシュ」『教育哲学研究』(教育哲学会)第一〇七号、一九一ー一九六頁。

Rorty, R. (1982) *Consequences of Pragmatism: Essays 1972 - 1980*, Minneapolis: University of Minnesota Press.

Rorty, R. (1994) "Does Academic Freedom Have Philosophical Presuppositions?" *Academe*, vol.80, no.6 (November/December), pp.52-63.

- 引用文献の挙げ方の一例である。
- 言語圏・専門分野・マニュアル等により、既定の書式がある場合は、それに準じること。
- 和文著書、和文論文、英文著書、英文論文の順番に記載例を挙げている。
- 「註」の中で、すでに引用文献を挙げている場合は、「引用文献」欄を改めて設ける必要はない。